



タマゴタケ(1989年)(撮影:伊沢正名)

企画展 4月7日(土)～5月20日(日)

「柳宗悦 展 -暮らしへの眼差し-」 2

企画展 7月14日(土)～9月2日(日)

「開館40周年 大きなこ展」 3

【自然】 資料紹介「魚類の透明骨格標本」 4

【人文】 資料紹介「幻の藩営岩船山牧場」 5

コラム 「鷗尾の復元レプリカ」

【美術】 新収蔵品紹介「井田勝巳《時の記憶》」 6

コラム 「土曜日は博物館でアートな時間を！」

【山陰海岸学習館だより】 屋外トイレの増築と利用者サービス向上のお知らせ .. 7

講座・観察会・毎週土曜はアートの日！ 8

40th Anniversary 開館40周年



「柳宗悦展 ~暮らしへの眼差し~」

柳宗悦(やなぎ・むねよし 通称: そうえつ1889年~1961年[写真1])。いま、この名前を聞いてすぐにどんな人物だったのかを思い浮かべることができる人は、もしかしたらそう多くはないかもしれません。しかし、「民芸」となるとどうでしょう。地方で連続と作り続けられる懐かしさを秘めた焼きものや着物、木工家具などが比較的たやすくイメージされるのではないのでしょうか。柳宗悦は若くして心理学、次いで宗教哲学や美術評論で一躍脚光を浴び、その後、近代化を推し進める日本社会において「反近代的」とも呼ぶべきユニークな美の思想を展開した人物だったのですが、実は「民芸」とは、柳とその仲間たちが旅の車中で生み出した造語なのです。本展は、そのような多彩な顔をもつ柳その人にスポットを当てて紹介する、山陰では初のこころみとなります。

武者小路実篤や志賀直哉らとともに雑誌『白樺』を創刊し、旺盛な執筆・編集活動を行っていた柳宗悦は、朝鮮の陶磁器[写真2]などとの出会いをきっかけに、無名の職人たちの手が生み出す日用の雑器に美を見出します。そして、同志らとともにそれらを「民衆的工芸=民芸」と名付け、その再評価と保存・展開を目指す「民芸運動」を創始、カリスマ的な吸引力でそれを主導しました。柳はその活動の拠点として、1936年10月、東京・駒場に日本民藝館を開設、独自の審美眼によって精力的に収集した古今東西の逸品を公開



写真2 《染付秋草文面取壺》朝鮮半島 18世紀前半 日本民藝館蔵

していきます。以後四半世紀にわたり、全国の支援者、活動家、職人らとともに、手仕事の復権を目指し、生活の中で美を重んじる活動を繰り広げ、1957年には文化功労者にも選ばれました。

いま、地に足のついたライフスタイルの構築を目指そうとする人々のあいだで、北欧のクラフトなどと並んで再び民芸が注目されています。本(巡回)展は、柳が1961(昭和36)年5月に没して50年、また、海外での評価も高い民芸コレクションを誇る日本民藝館が開館して75年が経過し、観光と一体化した1960~70年代の民芸ブームとは異なる兆しが見えるこの時期に、同館選りすぐりの優品約350点の展覧を通じて、明治末から昭和にかけて時代が大きく移り変わる中、新しい美の概念と工芸理論を展開した柳の「眼差し」の遺産をあらためて見つめる機会を提供しようとするものです。また、柳宗悦の考えを受け継ぎながら、プロダクトデザイナーとして伝統と創造の融合を目指し、惜しくも昨年末に逝去された長男・柳宗理(やなぎ・むねみち

1915年~2011年)の「手と眼」(創作と収集)にも焦点を当て、現代にまでつながる柳の「美の思想」の果実をご覧ください。

さらに、鳥取で開催される本展では、独自の展示として、柳宗悦の影響を強く受けた吉田璋也(鳥取)、太田直行(松江)などの山陰の民芸運動の活動家や職人らと柳との交流



写真1 柳宗悦肖像 日本民藝館にて 1951年

[写真3]を、書簡資料やさまざまな作品などにより紹介するセクションを設け、山陰における柳の足跡を検証することとしています。どうぞご期待ください。(美術振興課 三浦 努)

※写真提供は全て日本民藝館

- 会 期:4月7日(土)~5月20日(日)
※5月1日(火)のみ一部展示替えのため休館
- 会 場:2階 第1・第2特別展示室
- 料 金:個人当日/600円
個人前売、20名以上の団体/400円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料

■関連行事

◎柳宗悦&民芸をめぐるトーク・シリーズ

1. 特別講演会I「柳宗悦のまなざし」
日時:4月7日(土) 14:00~15:30
会場:当館2階講堂(参加費無料)
講師:白土慎太郎氏(日本民藝館学芸員)
定員:250名(申込不要・先着順)
2. トークセッション
「いま、民芸、工芸について語り尽くそう!」
日時:4月14日(土) 14:00~15:30
会場:当館2階講堂(参加費無料)
講師:山下清志氏(延興寺窯陶主)
山下健氏(染織家)
大江啓司氏(鳥取県・民芸振興官)
定員:250名(申込不要・先着順)
3. 特別講演会II「柳宗悦のこころ」
日時:4月21日(土) 14:00~15:30
会場:当館2階講堂(参加費無料)
講師:竹下多美氏(長野市立博物館専門員・仏教美術研究者)
定員:250名(申込不要・先着順)

◎ギャラリートーク

- (企画展担当学芸員による展示解説)
日時:4月28日(土) 14:00~15:00
会場:本展展示会場(要観覧料)

◎アートシアター「兼子」

- (2004年、兼子制作委員会、80分)
日本を代表する声楽家(アルト)として活躍し、日本の近代声楽法の確立に大きく貢献すると同時に、柳宗悦の妻としてその生活、活動を支えた柳兼子(1892年~1986年)のドキュメンタリー。
日時:5月12日(土) 14:00~15:30
会場:当館2階講堂(参加費無料)
定員:250名(申込不要・先着順)



写真3 新作民芸品試作第一回窯出しの様子(1931年5月11日、鳥取・牛ノ戸窯にて:後列左より柳宗悦、吉田璋也、前列は牛ノ戸窯陶主の小林秀晴)

開館40周年 大きのこ展

まんが王国、子育て王国、カレー王国など、鳥取県にはいくつも王国がありますが、「きのこ王国」もあります。とくに今年6月14日(木)~16日(土)には、鳥取県立産業体育館において、鳥取県で初開催の「全農乾椎茸品評会」にあわせて、「きのこ王国とっとりけんフェスティバル(仮称)」が開催されます。鳥取県は昨年この品評会で団体優勝しました。このフェスティバルでは、品評会の表彰式や原木しいたけ生産者の大会以外にも、きのこ料理のフォーラムや料理の実演、試食販売や体験コーナーなど一般の方が楽しめるイベントが予定されています。

鳥取県で品質の高いきのこが作られ、きのこ王国の活動がすすめられている理由の一つに、日本で唯一のきのこ専門研究機関「財団法人日本きのこセンター菌茸研究所」の存在があります。菌茸研究所は、半世紀前(1959年)鳥取市に設立され、野生きのこについての基礎研究から、品種改良・栽培技術などの応用研究まで、日本のきのこ研究をリードしてきました。毎年10月第1土曜日に開催される「とっとりきのこ祭り」でもおなじみかもしれません。

鳥取大学農学部にも2005年に「菌類きのこ遺伝資源研究センター」が設置され、世界的な研究拠点を目指し、国内外から優秀な研究者や学

生が集まって、菌茸研究所と連携しながら世界をリードする研究が行われています。

鳥取県立博物館でも、開館40周年記念の企画展として、この夏、「大きのこ展」を開催します。きのこはどんな生きものなのでしょう。草や木と同じ植物の仲間のように思われることも多いですが、「菌類」というむしろ動物に近い別のいきものです。きのこは胞子で繁殖しますが、この胞子をつくる器官が「きのこ」で、植物でいえば「花」にあたる、菌類の体の一部でしかありません。日本では3000種ほどのきのこが知られていますが、まだ名前のないものもたくさんあります。

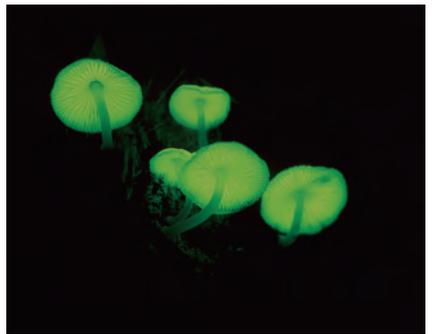
この企画展では、きのこはどんな生きものなのか、その多様性や生態系での働きを、全国から集めてくる模型や標本などでわかりやすく紹介します。18・19世紀の美しいきのこの図譜、たとえばピエール・ビュイヤールの「フランス植物誌」(千葉県立中央博物館蔵)や、伝説的な博物学者、南方熊楠の菌類図譜(国立科学博物館蔵)も展示予定です。生き物ですので、会期中いつでも光っているところが見られるとは限りませんが、「光るきのこ」も展示します。

遊べるきのこの森も出現しますし、きのこのグッズで有名な伯耆町の「カエル工房」のワークショップや、多くのきのこ図鑑の写真を撮っている伊沢正名さんの講演会もあります。また、今年は、20世紀を代表する作曲家で、きのこマニアだったジョン・ケージの生誕100周年でもあり、ケージの音楽をテーマにしたワークショップとコンサートも行います。いろいろな角度から楽しめる「大きのこ展」にご期待ください。

(学芸課 有川 智己)



博物館のすぐ裏に生えていたヌメリシギタケ(撮影:米澤明子)



暗闇で光るヤコウタケ(撮影:伊沢正名)

- 会 期: 7月14日(土)~9月2日(日)無休
- 会 場: 2階 第1・2特別展示室
- 料 金: 個人当日/700円
個人前売、20名以上の団体/500円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 関連行事 (※変更の可能性あります。)
- ワークショップ
「きのこアクセサリをつくろう!」
講師:カエル工房
7月21日(土)①10:00~12:00 ②13:00~15:00 ③16:00~18:00 会議室(要材料代)
定員:各回20名(要申込・往復ハガキ)
申込締切:7月7日(必着)
- 特別講演会「命を還すキノコのはたらき」
講師:伊沢正名氏(元自然写真家)
7月28日(土)13:30~15:30 講堂(無料)
定員:250名(申込不要、先着順)
- 鳥取大学グローバルCOEプログラム「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」公開シンポジウム
8月19日(日)13:00~16:00 講堂(無料)
定員:250名(申込不要、先着順)
- ワークショップ「音を出そう、ケージ体験」
講師:藤島啓子氏・吹田哲二郎氏
8月25日(土)14:00~16:00 講堂(無料)
対象:小学生~一般 定員:20名(要申込)
申込受付:8月11日(土)~電話のみ
- 演奏会「きのこを愛した20世紀の作曲家ジョン・ケージコンサート-今日は一日きのこ狩り、かご(Cage)に一杯、mushroom & music!」
8月26日(日)14:00~16:00 講堂(無料)
定員:250名(申込不要、先着順)
- 自然講座「鳥取大学菌類きのこ観察講座~野外観察と顕微鏡実習~」
9月1日(土)10:00~16:00 博物館周辺(久松公園)・会議室(無料)
対象:小学生~一般
定員:顕微鏡実習込み20名/野外観察のみ30名(要申込)
申込受付:8月1日(水)~電話のみ



きのこの森で遊ぼう!(展示イメージ。ミュージアムパーク茨城県自然博物館2005年企画展の様子。同館提供。)

魚類の透明骨格標本

みなさんは、魚の標本、というとどんなものを思い浮かべますか？ビンに入った液浸標本(写真1上)でしょうか、生きていたときの姿を再現した剥製標本(写真1中)でしょうか、あるいは骨を組み立てた骨格標本(写真1下)でしょうか。

液浸標本はホルマリンなどの薬品で魚の体組織を固定し、腐敗や乾燥を防ぐ保存液につけたものです。標本の作製に特別な技術を必要とせず、魚を丸ごと保存できます。後から解剖して内臓や骨格の様子を調べることもできるので、とくに学術研究にはもっとも重要な方法です。ただ表面が色あせてしまい、「見ばえ」はあまりいいとはいえないので、展示には不向きな面があります。

剥製標本は魚の皮だけを残し、型にかぶせるなどして整形したものです。表面の色彩は保存されないもので、通常は生きていたときの様子を元にして、人の手で着色されます。そのため、できればは作り手の技術やセンスに大きく左右されてしまいます



写真1. (上) 様々な魚類の液浸標本 (中) アマゴ剥製標本 (下) スズキ骨格標本

が、上手に作られたものはそれこそ生きていたかのような迫力があり、多くの博物館で展示に用いられています。一方、骨や内臓は残らず、表面のウロコも塗料で塗りつぶされてしまうので、学術研究には不向きです。

骨格標本は骨だけを残して乾燥させたもので、骨の形状を研究したり、またそれを展示等で説明したりするときには重宝します。ただし魚には小さな骨が多くあり、ひとつひとつの配置や向きを正確に再現するのはたいへん困難です。また軟骨の部分はそのまま乾燥させると変形してしまうので、すべての骨の形を保つことができないのが難点です。

さてこれらのほか、近年注目を集めているのが透明骨格標本(写真2~4)です。まるで特殊なレントゲン写真かコンピューター・グラフィックスのように見えるかもしれませんが、これが肉眼で見たままの様子です。

これは魚体の筋肉を酵素やアルカリなどの薬品で透明化し、染色液で硬骨を赤紫色、軟骨を青色に染めたものです。これによって小さな骨や軟骨までも、生きていたときの配置や向きのまま、保存・観察することができます。たとえば写真2では顎の複雑な構造を観察することができ、写真3では体の辺縁部のヒレを構成す



写真2. カワハギの透明骨格標本

る軟骨質の部分がきれいに保存されていることがわかります。

またなんといっても、この標本がもつ独特の美しさも大きな魅力です。理屈抜きにインテリアとしても楽しめますが、博物館ではお客さんの目を引きつけ、生きものの体のつくりの不思議さに興味をもってもらうきっかけ作りとして、おおいに有効だと考えています。このような標本は、透明度の高いグリセリンという液体につけておくことが一般的ですが、当館では透明アクリル樹脂のブロックに封入することで、小さなお子さんでも手にとって様々な角度から観察しやすいようにしています(写真4)。

このように、魚類の標本といっても様々なものがあり、それぞれに一長一短があります。博物館では、それらの特徴を考慮しながら目的に応じた標本を作り保管していくことで、みなさんの学習や調査研究に活用していただきたいと思います。

(学芸課 一澤 圭)



写真3. クロウシノシタの透明骨格標本 (前半部拡大)



写真4. アクリル樹脂で封入された魚類の透明骨格標本

幻の藩宮岩船山牧場

いわふねやま

大山で毎年開催されていた牛馬市は、西日本最大の市として、畿内や中四国から多くの牛馬が集まっていたことは有名です。一方、鳥取藩の馬牧場の存在を知る人は数少ないのではないでしょうか。

鳥取藩には幕末まで藩宮の牧場はありませんでした。しかし、異国船が日本列島付近に頻繁に出没する幕末になると、軍事的緊張の高まりから、藩も自前で軍用馬を育成する必要性に迫られました。そして、安政6年(1859)ついに計画を実行します。

予定地は伯耆国八橋郡八橋の岩船山周辺(現・琴浦町八橋大成)。一帯は標高200m程度の広野で、馬の飼育に欠かせない流水があるとして、家老津田家から提供されました。

牧場の様子は計画図によってうかがえます(図参照)。牧場周辺には馬が逃げないように堀がめぐらされ、外側に「牧御場所」と銘記された棒杭が打

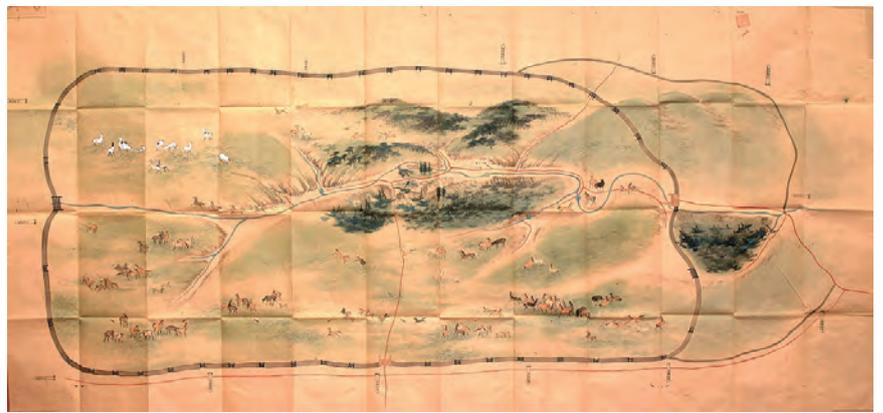
たれています。また、牧場中央には番人小屋が、牧場内の川には水飲み場のような四角い貯水池がいくつか設置されています。図には、多くの馬が描写されるなど、牧場の理想的な未来像が描かれています。

しかし、岩船山牧場はわずか7年後の慶応2年(1866)、牧場内に生い茂った木々が子馬の生育に支障をきた

すという理由で中止。その後、牧場計画自体も廃止されて、自前で馬を育成するという夢はついえました。

現在では、地元の人でも岩船山牧場について知る人はほとんどいません。今後は、詳細な現地踏査を含め、幻の牧場の全容について迫っていただきたいと思います。

(学芸課 大嶋 陽一)



岩船山牧場図

コラム

鴟尾の復元レプリカ

「鴟尾」は、古代寺院などの屋根の大棟両端につけられた飾りで、基本的に瓦と同じ焼き物です。県内では13ヵ所で見つっていますが、うち8ヵ所は「山陰型鴟尾」と呼ばれるタイプの鴟尾です。その特徴は、①縦帯・鱗部の段を突帯で表現する、②縦帯の前側に鱗状の表現があり、その中に円板を貼り付ける場合がある、などです。見つかったのは兵庫県北部から島根県東部の15ヵ所の古代寺院跡・遺跡だけで、山陰地方の地域的な鴟尾と評価されてきました。

さて、当館では玉鉾等ヶ坪廃寺(鳥取市国府町)から採集された山陰型鴟尾の破片を所蔵しています。開館時にこれを基にして復元レプリカを製作



写真1:旧復元レプリカ

しており(写真1)、山陰型鴟尾の典型例として紹介された事もあります。

しかし、かなり大型であることや鱗部に屈曲があることなどに

違和感を覚え、ある時改めて破片を観察しました。その結果、破片は2個体分があり、これまでの復元は2個体を1個体としたことにより誤っていたことが判明しました。そこで、昨年度に復元をやり直し、新たにレプリカを製作しました(写真2)。全高、最大幅とも20cm程度小さくなりましたが、伸びやかですっきりとした形に復元できました。



写真2:新たな復元レプリカ

この新しい復元レプリカは、歴史・民俗展示室で展示中ですので、ぜひご覧ください。

(学芸課 東方 仁史)

い だ かつ み

井田勝巳《時の記憶》

当館では2009年度に彫刻家、井田勝巳の近作を収蔵いたしました。1956年に鳥取県日吉津村に生まれた井田は東京造形大学で佐藤忠良に学び、1981年に卒業した後も多くの彫刻展で活躍を重ね、1996年には宇部市の第16回日本彫刻展で大賞を受賞しています。翌年には米子市美術館で個展を開催し、2000年には第31回中原悌二郎賞優秀賞も受賞しています。

井田は主に石を用いて、素材感を残しつつ、喚起力の強い作品を次々に制作してきました。ことに1994年頃より、船のかたちとその甲板部分に古代都市を連想させる遺跡状の形状を重ねる一連の作品の制作を始め、天空へ向かう船、石材の内部に刻まれた古代の建築のイメージはこれ以後、井田の作品に共通するモチーフとなりました。第16回日本現代彫刻

展において大賞を受賞し、野外に設置された《月に向かって進め》は航海や古代、記憶や神話といった様々の連想をかきたて、井田の代表作として知られています。

今回収蔵した《時の記憶》は近年井田が取り組んでいる新しいシリーズです。これまで用いられてきた花崗岩は台座の部分のみに使用され、真鍮と和紙、木という素材が用いられています。一見してわかるとおり、黒い台座から真鍮製の麦の穂が上に向かって無数に伸び、その上に和紙と木を用いて制作された船が置かれています。複数の素材が使用され、和紙の白、真鍮の金、台座の黒という色彩の対比が鮮やかな点はこれまでの作品と異なりますが、船のかたちが使用され、寓意性が強い点は共通し、造形的な完成度も一段と高くなっています。井田はこの作品について



2003年 紙、木、真鍮、花崗岩 130.5×118.0×100.0cm
図版は「文化庁芸術家在外研修制度40周年記念「旅」展」カタログより転載

「私たちが感じている時間とはいったい、本当のところいかなるものなのか、時間と空間は本当に存在するのか」といったことを考えながら制作したと述べています。明快なかたちのなかに深い哲学的な思弁性を備えた作品といえるでしょう。

(美術振興課 尾崎 信一郎)

土曜日は博物館でアートな時間を!

当館では「毎週土曜はアートの日!」として、さまざまなイベントを行っています。展示作品について分かりやすく解説をする「ギャラリートーク」、アーティストをお招きしたり博物館の広い空間を生かしたりして、家庭では体験することの出来ない物作りが出来る「ワークショップ」。他にも、話題になった映画を無料でご鑑賞いただく「アートシアター」、学芸員がテーマに沿ってお話をする「アートセミナー」など、楽しくてためになる企画が盛りだくさんです。大人から子どもまで楽しんでいただけるよう工夫しています。人気のあったイベントをいくつかご紹介します。

子ども向け企画としては、道路に落書きをする風景を見なくなった今だからこそ企画「落書きばんざい!」(平成23年10月1日)。博物館の玄関前のレンガに、チョークで思いっきり落書きしました。「子どもがあまり楽しそうなので、ついつい自分も夢中になって描いちゃいました。楽しかった!」とは

お母さんの感想です。夏休みの企画展「OCEAN!海はモンスターでいっぱい」の期間中に行ったのはワークショップ「くびなが竜をつくろう!」(平成23年7月31日)。自然の学芸員の解説で展示室の大きなくびなが竜を見た後、好きな流木を選んでのこぎりでギコギコ、ねじをギュッギュッ。自分だけの「くびなが竜」をつくりました。

大人向け企画では、現代の名工にも選ばれた菓子木型職人の市原吉博氏をお招きして木型のお話を聞き、和三盆で和菓子を作った「カワイクテオクブカイ-菓子木型の魅力-」(平成23年8月6日)。スペシャルアートシアター「ハーブ&ドロシー」(平成23年11月5日)には、話題の映画だったこともあり、100人を超える来館がありました。

平成24年度も、たくさんのイベントをご用意しています。

人気のあったワークショップ「落書きばんざい!」は春、秋の2回企画。また普段は触れられない彫刻作品を手

で触って鑑賞するワークショップ「触って味わう立体作品」など。

大人の方向けには、ワークショップ「市内アート探検」。前回の参加者の方々のご要望もあり、学芸員の解説で鳥取市・興禅寺の天井画を見学した後、お茶をいただくような企画にしています。

年間を通してアートな時間をお過ごしいただく「毎週土曜はアートの日!」の詳しい内容は、年間4回発行するリーフレット等をご覧ください。カラフルな縞模様のリーフレットです。土曜日は博物館でアート!楽しく、豊かな時間をお過ごしください。

(美術振興課 佐藤 真菜)



屋外トイレ棟の増築と利用者サービスの向上

当館は2010年にリニューアルオープンして以降、県内外から多くの方々にご来館いただいています。特に、小・中学校の教育利用や公民館事業等を含む団体での来館が増えています。そのような中で、以前から「館内のトイレの数が少ない」・「もっと利用しやすくしてほしい」という県民からの要望が多かったため、このたび、屋外トイレ棟を増築し、利用者サービスの向上を図りました。

今回増築した屋外トイレ棟には、目や耳の不自由な方々のために、点字誘導ブロックや音声誘導装置を設置しました。中央に配置した多目的トイレは車いすを使用されている方でも利用しやすいスペースを確保し、ベビーシートやベビーチェアを備え付け、安全対策のための非常用ライトや呼び出しブザーも完備しています。

さらに、鳥取県産木材を積極的に使用して温かみを感じることができる空間を創出しました。さまざまな関係団体から貴重なご意見をいただき、だれでも利用しやすい屋外トイレ棟とすることができました。また、屋外トイレ棟横の障がい者用駐車場から館内入口へつながる通路には一連の屋根を設置し、悪天候の時でも安全に歩行ができるようにしました。より利用しやすくなった山陰海岸学習館をこれからもぜひご活用ください。

(山陰海岸学習館 和田 年史)



景観予想図

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館 San'in Kaigan Nature Museum

■入館料:無料

■開館時間:9時~17時(入館は16時30分まで)

※7~8月の毎週土曜日は18時まで開館
(入館は17時30分まで)

■休館日:毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日は開館)

※7月20日~8月31日は毎日開館

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話:0857-73-1445

FAX:0857-73-1446

<http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/>



■ 学習館で行う普及活動一覧(平成24年度上半期)

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング 諸寄~浜坂コース」

5月6日(日)午前10時~午後2時

場所/諸寄~浜坂(兵庫県新温泉町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:40名(先着順) 申込開始:4月22日(日)~、電話のみ

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング 鴨ヶ磯~城原海岸コース」

6月24日(日)午前9時~正午

場所/鴨ヶ磯~城原海岸(岩美町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順) 申込開始:6月10日(日)~、電話のみ

《野外観察会》(岩美町立渚交流館と共催)

「夜の渚でスナガニの観察」

7月7日(土)午後7時~9時 場所/熊井浜(岩美町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順) 参加費:200円/1人

申込開始:6月23日(土)~、電話のみ

《野外観察会》

「磯の観察会」

7月22日(日)/28日(土)/29日(日)午前9時~午後3時

場所/熊井浜(岩美町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:各回30名(定員を越えた場合は抽選)

申込期間:6月17日(日)~7月1日(日)往復ハガキによる申込み(必着)

《野外観察会》

「大谷海岸の礫浜の石を調べよう!」

8月5日(日)/午前10時~午後2時 場所/大谷海岸(岩美町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

参加費:200円/1人 申込開始:7月22日(日)~、電話のみ

《天体観望会》

「ジオパークの夏の夜空を楽しもう!」

8月10日(金)/午後7時~9時 場所/山陰海岸学習館

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:なし、申込不要

《野外観察会》(岩美町立渚交流館と共催)

「ウミホタルの観察会」

9月15日(土)/午後6時~9時

場所/田後漁港または東漁港(岩美町)

対象:小学生~一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

参加費:500円/1人仕掛け(エサ代込)

申込開始:9月1日(土)~、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話:0857-73-1445)へ

2012 4 APR.	《特別講演会I》【企画展関連】 「柳宗悦のまなざし」 講師:白土慎太郎氏(日本民藝館学芸員)	■4月7日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《トークセッション》【企画展関連】 「いま、民芸、工芸について語り尽くそう!」 講師:山下清志氏(尾興寺製菓山)山下健氏(陶楽家)大江啓司氏(鳥取県・民芸館長)	■4月14日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《特別講演会II》【企画展関連】 「柳宗悦のころ」 講師:竹下多美氏(長野市立博物館専門員)	■4月21日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《講演会》 山陰型鷗尾について	■4月22日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
2012 5 MAY.	《ギャラリートーク》【企画展関連】 「柳宗悦展」	■4月28日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《ワークショップ》【企画展関連】 「My Favorite Craft Show!」	■5月5日(土) 14:30~16:30 / 会議室ほか ■小学生以上~一般 / 20名 / 参加費 ※4月21日(土)~電話申込・先着順
	《アートシアター》【企画展関連】 DVD「兼子」(80分)	■5月12日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《アートセミナー》【企画展関連】 「山陰における柳宗悦」	■5月19日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
	《野外観察会》 コケ・スポット・ハイキング	■5月20日(日) 10:00~15:00 /水ノ山自然ふれあい館「響の森」~わさび谷(若桜町) ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込みは「響の森(0858-82-1620)」へ
	《ワークショップ》 落書きばんざい! -夏編-	■5月26日(土) 14:00~16:00 / 玄関前外(雨天:会議室) ■幼児・小学生とその保護者 / 30名 / 無料 ※申込期間5月12日(土)~(電話申込・先着順)
	《天体観望会》 春の星を見る会	■5月26日(土) / 19:00~21:00 / 前庭 ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 定員なし / 無料 ※申込不要・予備日:5/27,6/2,6/3
	《歴史講座》 伯耆往来をあらく -鳥取城から湖山まで-	■5月27日(日) 9:00~13:00 <雨天中止> ■一般 / 20名 / 無料 ※申込期間5月15日(火)~(電話のみ、先着順)
	《アートシアター》 DVD「ウィリアム・ケントリッジの謎」	■6月2日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■中学生以上~一般 / 250名 / 無料
	《歴史講座》 (2回連続) 古文書を楽しむ(本圀寺事件)	■6月2日・16日(土) / 14:00~15:30 / 会議室 ■一般 / 20名 / 無料 ※要申込(電話のみ、先着順)
	《歴史講座》 (2回連続) 神話を読む -「因幡志」の語るオオクニヌシ-	■6月3日・17日(日) / 14:00~15:30 / 会議室 ■一般 / 20名 / 無料 ※要申込(電話のみ、先着順)
	2012 6 JUN.	《アートシアター》 (アニメーション30分) DVD「マイブリッジの糸」山村浩二最新作 メイキング「東京/モントリオール」
《ギャラリートーク》 コレクション展II		■6月16日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
《野外観察会》 キンヒバリを聞こう!		■6月16日(土) 17:00~19:30 / 湖山池青島 ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 30名 / 無料 ※申込期間5月31日(木)~
《ワークショップ》 触覚で味わう立体作品		■6月23日(土) 14:00~16:00 / 展示室・会議室 ■小学生以上~一般 / 10名 / 無料 ※申込期間6月9日(土) (電話申込・先着順)
2012 7 JUL.	《歴史講座》 弓矢をつくろう!	■6月24日(日) 10:00~15:00 / 会議室 ■小学4~6年生とその保護者 / 20名 / 200円 ※申込期間6月1日~15日(往復ハガキ・抽選)
	《アートシアター》 DVD「ウィリアム・エグルストン」	■6月30日(土) 14:00~14:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《講演会》 亀井茲矩と鹿野藩	■7月1日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《ワークショップ》 なりきりアートに挑戦!	■7月7日(土) 14:00~16:00 / 展示室・会議室 ■小学生以上~一般 / 10名 / 無料 ※6月23日(土)~電話申込・先着順

2012 7 JAN.	《ギャラリートーク》 なりきりアート写真鑑賞	■7月14日(土) 14:00~14:30 / 展示室・会議室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
	《歴史講演会》 「古事記」と「因幡志」-近世神話の成立-	■7月15日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《ワークショップ》【企画展関連】 きのごアクセサリ-をつくろう!	■7月21日(土)①10:00~12:00 ②13:00~15:00 ③16:00~18:00 / 会議室 ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 各20名 / 材料費未定 ※申し込みは往復ハガキ7月7日必着(抽選)
	《野外観察会》 川原の石を調べよう!	■7月22日(日) 10:00~15:00 / 鳥取市河原町 和奈見の千代川川原(午前)、用瀬町中央公民館(午後) ■小・中学生(小学生は保護者同伴) / 30名 / 200円 ※申込期間、7月5日(木)~
2012 8 AUG.	《歴史講座》 お金をつくろう!	■7月22日(日)①10:00~12:00 ②13:30~15:30 / 会議室 ■小学校4~6年生とその保護者 / 各20名 / 100円 ※申込期間6月29日~7月13日(往復ハガキ・抽選)
	《ワークショップ》 クラージュでつくる不思議な生き物	■7月28日(土) 10:00~16:00 / 会議室・展示室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間7月14日(土)~電話申込・先着順
	《スペシャルアートシアター》 DVD「エルミターージュ幻想」	■8月4日(土) 14:00~15:40 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 材料費(無料)
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞かす	■8月5日(日) 14:00~15:00 /歴史民俗常設展示室内復元民家 ■一般 / 定員なし / 常設展示の入場料
	《自然講座》 夏休みの自由研究相談室	■8月5日(日) 10:00~17:00の随時受付 / 会議室 ■小・中学生(小学生は保護者同伴) / 定員なし / 無料
	《アートシアター》 DVD「エリックカールコレクション」 「はらべこあおむし」他(アニメーション30分)	■8月11日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■幼児以上~一般 / 250名 / 無料
	《スペシャル・ワークショップ》 「アニメーションづくりに挑戦!」(仮称) 講師:遠藤賢治氏(大阪芸術大学教授)	■8月18日(土) 10:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間8月4日(土)~(電話申込・先着順)
	《講演会》 幕末の鳥取藩一本圀寺事件一	■8月18日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《野外観察会》 トンボをとろう! in 出合いの森	■8月19日(日) 10:00~12:00 /とっとり出合いの森(鳥取市桂見) ■小・中学生(小学生は保護者同伴・未就学児の参加も可) /30名 / 無料 ※申込期間8月2日(木)~
	《歴史講座》 貝の腕輪をつくろう!	■8月19日(日) 13:30~15:30 / 会議室 ■小学4~6年生とその保護者 / 20名 / 無料 ※申込期間7月27日~8月10日(往復ハガキ・抽選)
	《ワークショップ》【企画展関連】 音を出そう、ケージ体験	■8月25日(土) 14:00~16:00 / 講堂 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間8月11日(土)~(電話申込・先着順)
	2012 9 SEP.	《スペシャル・アートレクチャー》 「動く絵、描く映画アニメーションの探求」 講師:山村浩二氏(アニメーション作家)
《自然講座》【企画展関連】 鳥取大学菌類きのこの観察講座 ~野外観察と顕微鏡実習~		■9月1日(土) 10:00~16:00 / 久松公園・会議室 ■小学生~一般 / 顕微鏡実習20名・ 野外観察のみ30名 / 無料 ※申込期間8月1日(水)~
《アートセミナー》 ギュスターヴ・クールベの作品について(仮題)		■9月8日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
《講演会》 鳥取県の怪談-動物の怪を中心に-		■9月9日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料 ■講師 / 小林光一郎

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース

MUSEUM PRESS No.13

平成24年(2012年)3月16日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース
⑤仁風閣・県立博物館下車すぐ
ルーフ麒麟獅子アコース(土・日・祝日のみ)
④鳥取城跡下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

株式会社 MORRIX ジャパン
鳥取市商栄町203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
0120-154022